

(別紙2-1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 23 年 3 月 22 日

【事業所概要 (事業所記入)】

事業所番号	4271200588		
法人名	医療法人 衷心会		
事業所名	グループホーム まごころ		
所在地	〒859-3722 長崎県東彼杵郡波佐見町岳辺田郷字水洗 361		
自己評価作成日	平成 23 年 1 月 20 日	評価結果市町受理日	平成 23 年 3 月 18 日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 URL	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4271200588&SCD=320
--------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要 (評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 医療・福祉ネットワークせいわ
所在地	〒840-0015 佐賀県佐賀市木原二丁目 6 番 5 号
訪問調査日	平成 23 年 2 月 25 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点 (事業所記入)】

ホーム周辺は静かな田園風景の中に佇み、近隣には一般住居があり地域性豊かな環境となっている。建物は自然の光を十分に取り入れやすい造りとなっており、落ち着ける雰囲気作りを心がけている。

職員には常に外部研修の場を与え、認知症の理解やリスクマネジメント等について学習し、安全・安心なケアを提供できるよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点 (評価機関記入)】

ホームは、山々の景色で季節が感じられる環境の中にあります。近隣は、住宅地で地域との交流も図られています。施設内は広々としており、大きな窓からは光が十分に取り込まれ、明るい雰囲気を醸し出しています。そのような環境の中で、利用者は一人ひとり、思い思いの時間を過ごされています。

職員のスキルアップに力を注がれており、職員へ研修の場が提供され、日々の支援の質の向上につなげられています。職員間のコミュニケーションも良好で、レクリエーションを通じて利用者の身体機能の維持・向上にも積極的に取り組まれています。

(別紙2-2)

1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事務所前に掲げ、職員の名札にも理念を表示することで、いつでも理念を意識できるよう心がけている。	理念はホーム内に掲示され職員間への意識づけを行い実践に向け取り組まれています。	開設当初からの理念が掲げられていますが、もう少しわかりやすい表現に変えたいといった意向が伺えましたので、見直しについて検討されることを期待します。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流は少ないが、近所の知人等が面会に来てくださる。また散歩等を通して近隣の方と交える機会となっている。	運営推進会議に参加頂いたり、近所の方がホームを訪ねられたりと、少しずつ交流が増えているようです。近所の人から野菜を頂くこともあったことでした。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター研修に参加し、地域の一員として認知症の方を支援していけるよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回運営推進会議を開催し、サービスの質の向上に向けた取組みなどを報告し、意見を頂いている。	定期的に会議が開催されています。回を重ねる毎に意見や要望等も増えてきているとのことです。有意義な会議の場となっています。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村役場を訪れた際には、担当者と情報の共有を図るよう努めている。	役所には、諸手続きや月のホーム便りを届ける等、関係づくりに努め、敬老会には、担当課長が慰問されるなど、協力関係が築かれています。	

6	<p>5 ○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>事故防止のための委員会を設置し、またヒヤリハットの提出を励行し、リスクマネジメントを行いながら、身体拘束をしなくてもいいケアに努めている。</p>	<p>身体拘束は行わない方針で支援されています。事故防止のための委員会の設置や、代表者による外部研修受講及び、その内容の内部への伝達が行われています。</p>	
7	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>認知症の方に対する接遇について話し合い、虐待に繋がらない対応を心がけている。</p>	/	/
8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>制度や事業について学習できる機会が少ない。必要と判断できる利用者のご家族に制度について説明した経緯はある。</p>	/	/
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約締結前に重要事項の説明を行い、理解していただいたうえで契約を行っている。</p>	/	/
10	<p>6 ○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族の面会時のコミュニケーションを重視し、全職員が意見を頂きやすい雰囲気をつくり、また意見箱や苦情相談窓口を設置しています。ご家族様からの意見は会議の際に検討し、質の向上に努めています。</p>	<p>主に、面会時に要望などを聴かれています。家族から新人職員の名前と顔が一致しないとの意見があり、玄関にスタッフの写真が掲示されている例なども確認出来ました。意見箱の設置も確認しました。</p>	
11	<p>7 ○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月職員会議を設け、意見交換の場となっている。また常時ユニット主任以上の会議を行い、現場の意見を反映させている。管理者は日常から各職員とのコミュニケーションや個人面談を実施している。また意見箱を利用し意見を普段言いにくい意見も出しやすいようにしている。</p>	<p>管理者は日頃から職員の声に耳を傾け、個人面談も行われています。職員からの提案で、委員会を設置した事例なども確認出来ました。</p>	

12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>介護職員処遇改善交付金の実施に伴い、勤務年数や資格等で独自の処遇改善を行った。代表者は頻繁に現場を訪れ職場環境を把握されている。管理者も代表者と密に連絡・報告を行い働きやすい環境作りに努めている。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>毎月法人内で開催される研修に参加している。また、外部研修にも全職員交代で参加できるように調整を行っている。外部研修に参加した職員は職員会議の際に研修報告を行っている。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>地域で開催されるセミナー等に参加したり、外部各種研修に参加することで、他の施設職員との交流の機会となり情報収集の場となっている。</p>		
<p>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p>				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入所前調査をさせていただき、利用者の心身の状況や不安ごとを把握できるよう心がけている。また契約前に施設見学をしていただき職員との関係作りに努めている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入所相談があった際には十分に話を聞き、受容的に対応させていただいている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入所前に数回施設見学をしていただくことで、無理のない入所へと心がけている。利用者・家族の希望に応じた柔軟な対応が出来るよう心がけている。</p>		

18	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者主体の立場に立ち、利用者の出来ることを支援するよう心がけている。掃除や洗濯物干し・畳みを一緒に行ったり、また歌を一緒に楽しんだりしている。		
19	○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月利用者その月の状況をお手紙で送付している。必要時には家族カンファを行い、相互理解の場としている。密にご家族に連絡を取ったり、面会時にはゆっくりと居室で過ごしていただく。		
20	8 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の面会などいつでも来ていただけるよう声かけしている。老人会や地域行事に送迎の支援を行っている。馴染みの理美容室を利用されている方もおられる、など昔からの関係性を途切れさせないよう心がけている。	家族の協力も得ながら、食事会やお茶会などへの送迎をしたり、馴染みの関係が途切れないよう支援されています。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事などを出来る利用者様には共同で協力していただき、昔遊びや懐かしい歌を皆で歌い関係支援に努めている。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院になられた方には面会を通し関係が途切れないように心がけている。亡くなられた方の葬儀や通夜には必ず訪れるよう心がけている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	介護員は日頃のコミュニケーションの中で、利用者の思いに触れ意向等の把握ができるよう心がけている。	支援は担当制とされており、利用者一人ひとりと深く関わることで、意向の把握につながられています。表情や仕草などから常に利用者の思いを汲み取るよう努められています。	

24	<p>○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>初回面接時に利用者の生活歴の把握に努め、アセスメントシートにて情報の共有を図っている。また介護員は利用者の施設見学の際に家族や本人との会話の中でこれまでの暮らしの把握に努めサービス開始時に備えている。またカンファレンスの折に家族から詳しい情報を得ている。</p>			
25	<p>○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>介護員は毎日のケアの中でいつもと違う状況を敏感に感じ取り、一人ひとりの現状を把握している。また変化が見られた状況は連絡板を使って全職員が把握できるよう努めている。</p>			
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>毎月ケアカンファを設け、ケア内容の確認・見直しを行なっている。必要であれば家族に同席していただき検討している。介護計画は担当介護員がアセスメントを行いケアマネが作成している。</p>	<p>各々の担当職員が、アセスメントし、カンファレンスで職員や家族の意見も踏まえた計画が作成されています。</p>	
27	<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個別記録に加え日・夜勤日誌をもとに、入所者の状況を総合的に把握できるようにしている。また急な変化や状況を全職員が把握できるよう連絡板や医療用連絡簿などを利用してケアの実践に活かしている。</p>			
28	<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>地元の老人会など地域参加への送迎や通院など家族の希望により対応させていただいている。</p>			
29	<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>外食の際には外食先に老人向けのやさしい食事を提供していただいた。年に一度地域婦人会の方によるボランティア活動を受け入れ交流の場となっている。利用者・家族の要望に応じ、訪問理美容を利用させていただいている。</p>			

30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>殆どの方が協力医を主治医とされているが、本人やご家族の希望により入所前の主治医の方も居られる。協力医は定期的に往診に訪れ安心して医療を受けていただいている。</p>	<p>利用者、家族の希望を重視して支援されています。状態の変化等に応じて往診等も行われ、適切な医療が受けられるように支援されています。</p>	
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>介護職員は日々の関わりの中で、些細な変化を見逃さないように心がけ、看護職員へ伝達している。また医療用連絡ノートを活用し誰もが主治医に必要な情報を伝えられるように心がけている。</p>	/	/
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>利用者が入院をされた場合は介護サマリーを作成し、適宜面会に行き状況を確認している。また看護師からも情報をうかがい、早期の退院に繋げられるよう心がけている。</p>	/	/
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化に向けた指針を作成し、ご家族や主治医とも重度化した場合の対応を話し合っている。</p>	<p>看取りを希望される家族へは計画書等が作成され、同意も得られています。又、職員への研修や家族、主治医との話し合いの場を持つなどの取り組みが行われています。</p>	<p>利用開始時など早い段階から家族共に意向を伺い、状況変化に応じた話し合いと、段階的な方針の共有に努められることを期待します。</p>
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>定期的な訓練は行っていないが、各職員は積極的に消防署等で開催される救急救命講習に参加し実践力を身につけようと努力している。 職員のうち1名は2泊3日の訓練に参加し、研修内容をもとに訓練を行った。また職員会議の折に看護職員による救急蘇生法の実習を行った。</p>	/	/
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>近隣住民の方の火災時の協力をお願いしている。自動通報装置には近隣住民の方へも連絡が行くように設定している。 自然災害時の避難訓練も実施している。</p>	<p>近所の方の協力を得ながら、災害対策に取り組まれています。来月には、地域の方に参加して頂き、訓練を行う予定をされています。</p>	

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者への対応・接遇に関し、職員会議の折に周知徹底を行ない、丁寧に暖かい対応を心がけている。安全面への配慮とプライバシーの確保・本人の意思尊重に難しさを感じているが、尊厳を傷つけないよう努力している。	接遇委員会を設け、利用者の尊厳やプライバシーに配慮した言葉かけや対応等について検討され、日々の支援につながられています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	決められた日課の中でも、本人が自己選択できるような声のかけ方が必要と考える。日常のコミュニケーションの中で思いを表出していただけるよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意思やペースに沿った生活(食事の時間や入浴)を支援できるよう心がけているが、安全面の確保や団体生活の支援との難しさを感じている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族や本人の希望に応じ行きつけの美容院を利用されている方もいる。行事の際にはお化粧を行ったりしておしゃれを感じていただくよう取り組んでいる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	感染対策により、料理・食事の準備はして頂いていないが、片付けやお盆・テーブル拭きを手伝って頂き共に過ごす一員として感じて頂くよう心がけている。食事は利用者職員皆でテーブルを囲み楽しく頂いている。また時には外食やお弁当を取り入れ普段と違う新鮮な食事ができるよう工夫している。	献立は利用者と一緒に考え、栄養士により作成されています。法人の方針により、食中毒等安全面から利用者の食事作りへの参加は見られませんが、テーブル拭きなどには取り組まれています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者に合わせて食事量を提供し、給食日誌にて食事量や水分量を把握している。水分が摂りにくい利用者には好むものを提供し水分確保に努めている。食事形態も個々にあわせ食べやすい食事を工夫している。		

42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後口腔ケアの声かけをし、必要に応じた援助をしている。口腔ケアが困難な利用者には口腔用ウェットティッシュを使用したり口腔内の清潔に力を入れている。認知症の程度に応じた介助の工夫も行っている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>排泄記録表をつけ、必要に応じ声かけ行なったり、自分で行かれる方はそっと見守りを行なっている。オムツ使用者や介助が必要な方へのプライバシーの配慮を更に徹底していきたい。</p>	<p>尿意がある人は自らトイレへ行かれ、職員によるさりげない見守りが行われています。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>排泄記録表をもとに、下剤を使用し排便コントロールを行っている。毎日ラジオ体操を行なったり、気候にあわせ散歩を行い体を動かせるよう心がけている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>時間や入浴日は決まっているが、一人ひとりがゆっくりと気持ちよく、また安全に入浴を楽しめるよう工夫した取り組みをしている。入浴が本人の負担にならないよう意思を尊重し誘導している。入浴剤等を利用し楽しい入浴を求めている。</p>	<p>入浴日は決められていますが、希望があれば臨機応変に対応されています。拒否が多い方には家族にも協力を頂いているとのことでした。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>就寝時間や休息は個々のニーズに応じて対応している。また寝具なども使い慣れたものを使っていたり、等ご家族と相談し使用している。照明にも配慮しセンサーライトを使用するなどの工夫をしている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>薬情報はケース記録にファイルし何時でも確認できるようにしている。薬が追加された際には副作用に注意した観察も行っている。疑問点は看護師へ確認している。</p>		

48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>毎日の掃除や寝具交換、洗濯干しなど一緒に行い共に過ごす一員として感じて頂けるよう心がけている。またコミュニケーションの中から何が出来るのかを把握し支援できるよう努力している。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>一人ひとりの希望に添えないこともあるが、地域の方の協力で老人会の会合に参加されている方がいる。季節に応じたドライブを考え外出する機会を作ったり、外食などの機会も設けている。</p>	<p>外出は要望に応じて支援されています。日常的には利用者の体調や、天候等を見ながら、近隣を散歩するなどの支援が行われています。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>基本的に事務所管理となっているが、本人の希望や家族と相談し少額のお金を所持されている方も居られる。能力に応じ欲しい物を一緒に買い物に行ったりする。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>いつでもかけたいところに電話をかけられるようにしている。殆どの方が自分でかけられないので代理でかけることもある。今後は季節の直筆お手紙をお送りできるような取り組みを行いたい。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節に応じた飾り付けや写真の掲示をしている。また懐かしい音楽を流したりしてくつろげるよう工夫している。冬には床暖房を使用したりして過ごしやすい温度調整を心がけている。</p>	<p>施設内には中庭が設けられ、明るい空間になっています。広々としたホールには畳の間も設けられ、壁の写真や絵画、季節に応じた飾り付けなどにより、居心地よい空間が保たれています。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ホール・食堂は一体的な造りの為、常に誰かの視線を感じる。ソファや居間を利用し、思い思いの場所で過ごせるよう配慮している。</p>		

54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはなじみの物やご家族の写真を持ってきていただくようお願いしている。その方の状況に応じ家族と相談しながら居室環境を工夫している。	利用者の好みで、馴染みの物を持ち込まれており、個性的な居室づくりが行われています。家族の写真や手作りの品等が飾られ、居室入口にも写真が掲示されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人が出来られることを見つけ、自立を支援できるよう心がけている。分かりにくい部分には分かりやすい文章で張り紙をするなど工夫している。		
V アウトカム項目					
56		職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの ○ 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない	
57		利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1, 毎日ある ○ 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない	
58		利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない	
59		利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)		1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない	
60		利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが ○ 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない	
61		利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない	
62		利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない	
63		職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ全ての家族と ○ 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない	

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		○	2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が
		○	2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
		○	3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

(別紙2-2)

1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事務所前に掲げ、職員の名札にも理念を表示することで、いつでも理念を意識できるよう心がけている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流は少ないが、近所の知人等が面会に来てくださる。また散歩等を通して近隣の方と交える機会となっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター研修に参加し、地域の一員として認知症の方を支援していけるよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回運営推進会議を開催し、サービスの質の向上に向けた取組みなどを報告し、意見を頂いている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村役場を訪れた際には、担当者との情報の共有を図るよう努めている。		

6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>事故防止のための委員会を設置し、またヒヤリハットの提出を励行し、リスクマネジメントを行ないながら、身体拘束をしなくてもいいケアに努めている。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>認知症の方に対する接遇について話し合い、虐待に繋がらない対応を心がけている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>制度や事業について学習できる機会が少ない。必要と判断できる利用者のご家族に制度について説明した経緯はある。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約締結前に重要事項の説明を行い、理解していただいたうえで契約を行っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族の面会時のコミュニケーションを重視し、全職員が意見を頂きやすい雰囲気をつくり、また意見箱や苦情相談窓口を設置しています。ご家族様からの意見は会議の際に検討し、質の向上に努めています。</p>		
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月職員会議を設け、意見交換の場となっている。また常時ユニット主任以上の会議を行い、現場の意見を反映させている。管理者は日常から各職員とのコミュニケーションや個人面談を実施している。また意見箱を利用し意見を普段言いにくい意見も出しやすいようにしている。</p>		

12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>介護職員処遇改善交付金の実施に伴い、勤務年数や資格等で独自の処遇改善を行なった。代表者は頻繁に現場を訪れ職場環境を把握されている。管理者も代表者と密に連絡・報告を行い働きやすい環境造りに努めている。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>毎月法人内で開催される研修に参加している。また、外部研修にも全職員交代で参加できるように調整を行なっている。外部研修に参加した職員は職員会議の際に研修報告を行っている。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>地域で開催されるセミナー等に参加したり、外部各種研修に参加することで、他の施設職員との交流の機会となり情報収集の場となっている。</p>		
<p>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p>				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入所前調査をさせていただき、利用者の心身の状況や不安ごとを把握できるような心がけている。また契約前に施設見学をしていただき職員との関係作りに努めている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入所相談があった際には十分に話を聞き、受容的に対応させていただいている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入所前に数回施設見学をしていただくことで、無理のない入所へと心がけている。利用者・家族の希望に応じた柔軟な対応が出来るよう心がけている。</p>		

18	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者主体の立場に立ち、利用者の出来ることを支援するよう心がけている。掃除や洗濯物干し・畳みを一緒に行っている。		
19	○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月利用者のその月の状況をお手紙で送付している。必要時には家族カンファを行い、相互理解の場としている。		
20	8 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の面会などいつでも来ていただけるよう声かけしている。老人会や地域行事に送迎の支援を行っている。馴染みの理美容室を利用されている方もおられる、など昔からの関係性を途切れさせないよう心がけている。		
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性に考慮し、職員が間に入り接することで関係性の調和に努めている。仲の良い入所者はお互いの居室でくつろがれる。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院になられた方には面会を通し関係が途切れないように心がけている。亡くなられた方の葬儀や通夜には必ず訪れるよう心がけている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	介護員は日頃のコミュニケーションの中で、利用者の思いに触れ意向等の把握ができるよう心がけている。		

24	<p>○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>初回面接時に利用者の生活歴の把握に努め、アセスメントシートにて情報の共有を図っている。また介護員は利用者の施設見学の際に家族や本人との会話の中でこれまでの暮らしの把握に努めサービス開始時に備えている。またカンファレンスの折に家族から詳しい情報を得ている。</p>			
25	<p>○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>介護員は毎日のケアの中でいつもと違う状況を敏感に感じ取り、一人ひとりの現状を把握している。また変化が見られた状況は連絡板を使って全職員が把握できるよう努めている。</p>			
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>毎月ケアカンファを設け、ケア内容の確認・見直しを行っている。必要であれば家族に同席していただき検討している。介護計画は担当介護員がアセスメントを行いケアマネが作成している。</p>		
27	<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個別記録に加え日・夜勤日誌をもとに、入所者の状況を総合的に把握できるようにしている。また急な変化や状況を全職員が把握できるよう連絡板や医療用連絡簿などを利用してケアの実践に活かしている。</p>			
28	<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>通院など家族の希望により対応させていただいている。</p>			
29	<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>外食の際には外食先に老人向けのやさしい食事を提供していただいた。年に一度地域婦人会の方によるボランティア活動を受け入れ交流の場となっている。利用者・家族の要望に応じ、訪問理美容を利用いただいている。</p>			

30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>殆どの方が協力医を主治医とされているが、本人やご家族の希望により入所前の主治医の方も居られる。協力医は定期的に往診に訪れ安心した医療を受けていただいている。</p>		
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>介護職員は日々の関わりの中で、些細な変化を見逃さないように心がけ、看護職員へ伝達している。また医療用連絡ノートを活用し誰もが主治医に必要な情報を伝えられるように心がけている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>利用者が入院をされた場合は介護サマリーを作成し、適宜面会に行き状況を確認している。また看護師からも情報をうかがい、早期の退院に繋げられるよう心がけている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化に向けた指針を作成し、ご家族や主治医とも重度化した場合の対応を話し合っている。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>定期的な訓練は行っていないが、各職員は積極的に消防署等で開催される救急救命講習に参加し実践力を身につけようと努力している。職員のうち1名は2泊3日の訓練に参加し、研修内容をもとに訓練を行なった。また職員会議の折に看護職員による救急蘇生法の実習を行った。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>近隣住民の方の火災時の協力をお願いしている。自動通報装置には近隣住民の方へも連絡が行くように設定している。自然災害時の避難訓練も実施している。</p>		

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>利用者への対応・接遇に関し、職員会議の折に周知徹底を行ない、丁寧に暖かい対応を心がけている。</p> <p>安全面への配慮とプライバシーの確保・本人の意思尊重に難しさを感じているが、尊厳を傷つけないよう努力している。</p>		
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>決められた日課の中でも、本人が自己選択できるような声のかけ方が必要と考える。日常のコミュニケーションの中で思いを表出していただけるよう心がけている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>本人の意思やペースに沿った生活(食事の時間や入浴)を支援できるよう心がけているが、安全面の確保や団体生活の支援との難しさを感じている。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>家族や本人の希望に応じ行きつけの美容院を利用されている方もいる。行事の際にはお化粧を行ったりしておしゃれを感じていただくよう取り組んでいる。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>感染対策により、料理・食事の準備はして頂いていないが、食事は利用者・職員皆でテーブルを囲み楽しく食事できる環境を心がけている。また時には外食やお弁当を取り入れ普段と違う新鮮な食事ができるよう工夫している。</p>		
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>利用者に合わせて食事量を提供し、給食日誌にて食事量や水分量を把握している。水分が摂りにくい利用者には好むものを提供し水分確保に努めている。食事形態も個々にあわせ食べやすい食事を工夫している。</p>		

42	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後口腔ケアの声をかけをし、必要に応じた援助をしている。口腔ケアが困難な利用者には口腔用ウェットティッシュを使用したり口腔内の清潔に力を入れている。認知症の程度に応じた介助の工夫も行なっている。</p>		
43	<p>16 ○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>排泄記録表をつけ、必要に応じ声かけ行なったり、自分で行かれる方はそっと見守りを行なっている。オムツ使用者や介助が必要な方へのプライバシーの配慮を更に徹底していきたい。</p>		
44	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>排泄記録表をもとに、下剤を使用し排便コントロールを行っている。ラジオ体操を行なったり、体を動かす機会を設けるようにしている。</p>		
45	<p>17 ○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>時間や入浴日は決まっているが、一人ひとりがゆっくりと気持ちよく、また安全に入浴を楽しめるよう工夫した取り組みをしている。入浴が本人の負担にならないよう意思を尊重し誘導している。入浴剤等を利用し楽しい入浴を求めている。</p>		
46	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>就寝時間や休息は個々のニーズに応じて対応している。また寝具なども使い慣れたものを使っていたり、等ご家族と相談し使用している。照明にも配慮しセンサーライトを使用するなどの工夫をしている。</p>		
47	<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>薬情報はケース記録にファイルし何時でも確認できるようにしている。薬が追加された際には副作用に注意した観察も行なっている。疑問点は看護師へ確認している。</p>		

48	<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>能力に応じ、洗濯物畳みをしていただいたり、調理の仕方を教えて頂いたりしている。</p>		
49	<p>18 ○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>季節に応じたドライブを考え外出する機会を作ったり、外食などの機会も設けている。</p>		
50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>基本的に事務所管理となっているが、本人の希望や家族と相談し少額のお金を所持されている方も居られる。買い物をつまのまれ、所持金から支払いをされる方もいる。</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>いつでもかけたいところに電話をかけられるようにしている。殆どの方が自分でかけられないので代理でかけることもある。今後は季節の直筆お手紙をお送りできるような取り組みに挑戦したい。</p>		
52	<p>19 ○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節に応じた飾り付けや写真の掲示をしている。また懐かしい音楽を流したりしたり、好まれそうなビデオを流しくつろげるよう工夫している。冬には床暖房を使用したりして過ごしやすい温度調整を心がけている。</p>		
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ホール・食堂は一体的な造りの為、常に誰かの視線を感じる。ソファや居間を利用し、思い思いの場所で過ごせるよう配慮している。</p>		

54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはなじみの物やご家族の写真を持ってきていただくようお願いしている。その方の状況に応じ家族と相談しながら居室環境を工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人が出来られることを見つけ、自立を支援できるよう心がけている。分かりにくい部分には分かりやすい文章で張り紙をするなど工夫している。		
V アウトカム項目					
56		職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57		利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58		利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59		利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)		<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60		利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)		<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61		利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62		利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63		職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		○	2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が
		○	2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
		○	3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない